

研究評価委員会分科会の各委員からの所見について(事後評価)

課題名「木造建築物の再資源化・資源循環化技術の開発」

1. 主な所見

- ・ 所見 : 研究計画が着実に実施され、計画時に期待した成果が充分得られたと判断する。中課題1, 2および3とも目標を上回る成果が得られていると判断する。
- ・ 所見 : 本課題は、建築研究所ならではの着手不可能なものであり、かつ達成度も建築研究所ならではのものといえる。成果の多くは、今後のさらなる発展と継続性が期待でき、持続的発展が可能な経済社会の構築に係わる産官学の研究に、大いなる知見を与えたといえる。また、世の中の動向に貢献するものである。
- ・ 所見 : 資源の有効利用と不足する廃棄物最終処分場の社会的な課題にも対応するもので、まことに時機を得たものと言える。収集された膨大なデータに基づく結論も説得力がある。
- ・ 所見 : 研究手法や主要成果だけでなく、得られた膨大で詳細な生データ自体、新規性が高い。
- ・ 所見 : 研究成果の発表(査読付き国内論文1、同国際論文3、国内外学会発表27、講演等6、記事41)は3年間という期間内での成果公表としては、特筆に価する。
- ・ 所見 : 研究の実施に当たっては産官学の大規模な組織を構築し、研究成果には大勢の人達の叡智が盛込まれており、外部との連携が十分にとられている。
- ・ 所見 : 本研究は世界的に先駆性が高いので、CIBなど海外での発表は意義深い。研究成果の海外へのPRを今後とも続けていただきたい。本研究成果が海外に波及し、国際的なレベルでのコンセンサスの下に、木材等資源の有効利用技術が確立することが期待される。
- ・ 所見 : 他構造(RC造、S造住宅)についてのデータと比較し、総合的な評価を行いたい。その中で循環型社会を形成する住宅のあるべき姿が浮かび上がってくるかもの考える。そのための継続研究の設定を希望する。
- ・ 所見 : 解体工事の実態は経済的要因で大きく左右されていることに留意し、業界団体等への普及を推進されると良い。
- ・ 所見 : 設計・施工において、性能上の確認が必要である。特に、改修技術との関連を明確にしたい。シックハウス対策技術との関連、整合性を考慮されたい。

2. 主な所見に対する回答

- ・ 所見 に対する回答: 本研究の内容と成果を高く評価する旨の各委員からのコメントを今後の研究の励みとしたい。
- ・ 所見 に対する回答: 本研究の成果を今後も積極的に海外に向けて公表し、開発した技術を国際的に普及させるための努力を続けてゆく。
- ・ 所見 : 他構造についての同様の研究についても、本研究の成果を活用しその可能性について今後検討する。
- ・ 所見 : 本研究には解体工事業の関係者にも参画をいただいております、経済性等に関する意見を集めながら、技術の実用化と普及についての検討を行っている。
- ・ 所見 : 技術の実用化にあたって分別解体容易性以外の諸性能の確認が必要であることを十分に認識している。構造性能については本研究で一部確認している。その他の性能については共同研究相手の企業等においてその確認が行われているところである。